

昭道報

Shodoho --- Newsletter of Shodokan ---

第14号(第3版)
平成17年03月05日発行

<発行所>
関西合気道競技連盟広報部
<発行責任者>
中村芳勝(広報部長)
<編集>
昭道報編集係

日本合気道協会設立三十周年記念大会

「日本合気道協会設立は昭和四十八(一九七三)年十一月三日、第四回全日本学生合気道競技大会の直後に東大阪市市民会館にて改組設立宣言が富木謙治師範により発表されたことでその歴史を再びスタートさせることになりました。それまでの協会は富木師範が独自の段位を発行するためのものであったのですが、これを発展的に解消し、新たに生まれ変わる事になったのです。その翌年、十月十九日には東京の神田丸菱会館にて日本

合気道協会発足式が行われ、今年でその改組設立からちょうど三十年が経過したことになります。」(記念大会プログラム『日本合気道協会設立三十周年を祝して』(日本合気道協会師範 成山哲郎)より)
日本合気道協会(以下、JAA)設立三十周年を祝して、二〇〇四年十二月四日・五日に日本武道館勝浦研修センターで記念大会が開催されました。

関西からは、内山シマエ昭道館理事長令夫人、成山哲郎師範、酒井進之介、藤本和義、成山哲也、萬谷久美子、大西美緒、河村未来、山崎文加、各大学からも、池田和正、平松孝、島崎加奈子、竹口貴子(以上、近畿大四名)、小山隆明、増田喜弘、大東登志子、小笠原章(以上、天理大四名)、宮本昌佳、濱野竜太、東野麻美、葛井彩代(以上、大商大四名)、谷英紀、野原佑資、浅野志実、金子祐美(以上、福科大四名)が出席しました。

以下参加者のレポートをご紹介します。なお紙面の都合上、同じような部分は大幅に省略させていただきます。



●昭道館本部指導員 酒井進之介

「講習会・合同稽古会」

講習会は成山師範と志々田師範が前後半で交代して行うことにより進められた。志々田師範による講習会では体操や運足を普段の稽古とは違った角度から捉え、その実用性に焦点を絞った内容で行われた。また手刀法と離脱法を座技と通して行うことにより手許の操法に集中して稽古することが紹介された。

成山師範の講習会では基本の当身技から始まり、相構片手取り、逆構片手取り、そして前から両手、後から両手、後から片手を両手で持たれた場合に対する当身技へと、基本から応用へ順序立てて進められた。おそらく今回講習会参加者の中には初めてこれらの技を習う方も多かったが、それぞれの参加者が和気藹々と技を稽古される姿は普段の講習会とは一味違う印象を受けた。

「演武会」

本大会の目玉である演武会は二日目の午前中に行われた。各支部演武は、それぞれの指導者が様々な工夫を凝らしてこれまでクラブを運営してこられたのだということがはっきりと見てとれる内容であった。

その一方で協会の主催する記念式典の演武会としては今後見直していかなければならない面もあったのではないだろうか。もし、今回の演武会が協会の内輪だけの演武会であれば和気藹々とした、また多くの加盟団体にご参加いただいた大会であったということと終わると思う。たまたまここに他の合気道団体が今回の演武会を見た時、果た

して何を感じるだろうかという視点がなければならぬ。

今回の記念式典は我々の合気道を今後益々普及し、その内容を深めていくための一つの狼煙であった。今後もういった全国の道友との交流を深める機会を設けていくことにより方向性をはっきりさせていくことも大切ではないかと思ふ。

●昭道館本部指導員 藤本和義

今回は記念大会と言うことで初めて勝浦の地を訪れました。武道館と宿舎は一緒に山の上の山にあり、近くにはコンビニすら無い孤島のような場所でした。六面のコートがとれる広さの道場に到着したときには既に沢山の方が稽古をしていて、あらためて記念大会なんだと実感が湧きました。

演武会は二十数団体に参加し、大学生の演武は学生大会などで見られる、スピードのある力強い演武が多く見受けられました。社会人の演武ではまず団体数とメンバーが様々なのに驚かされました。大学合気道部の卒業生や社会人から始めた方、子供から年配の方までが各団体の特色ある演武を繰り広げていました。中でも年配の方は基本動作や受け身等を織り交ぜた演武で、生涯武道と言う言葉を実感させる奥の深いものでした。

午後からは紅白戦が行われ、私は社会人の短刀乱取りに出ることにになりました。対戦相手は渡辺さんと言うこれまたデカイ人、私は相手の

昭道館が広がります



二〇〇五年二月初め時点の工事の様子です。昭道館の北側、拡張される部分です。

昭道館は「合気道を専門的に研究できる専用道場」という富木謙治師範の要請に応じて、一九六七年八月に内山雅晴昭和土地建物株式会社社長が設立されました。その後も変わることはない内山社長の御援助により、一九七六年の改築を経て現在の道場が完成したのは今から十七年ほど前の一九八八年三月二十日。最初に設立されてから三十八年になります。現在、昭道館には富木師範の合

時期は上の写真と同じ。シヨベルカーのところが拡張される部分です。奥に見えるのが道場北側の壁です。



(次頁へ)

技をかき潜り受け流しました。力ではかなわないので私は相手に正面当てを出してもらい、その腕を取り体を開いて脇固めに崩し、そのまま押し倒し「技有り」と言った感じでした。
帰りの電車が強風の影響で、勝浦〜東京間が三時間三分遅れるアクシデントに遭ったものの、車内で他支部のフランスス人の子等と交流するなど最後まで有意義に過ごす事ができました。

●昭道館本部 成山哲也●

記念大会に参加して感じたことは、こんなにも支部がたくさんあったのだということ。普段、私は本部道場といくつかの支部の稽古に行っていますが、全国にはまだまだたくさん支部があつて、同じ内容の稽古をしていることを改めて知り、実感できた

ことはとてもよい経験になりました。大会二日目の午前に行われた演武では、各支部それぞれ特徴のあるものばかりで、鮮やかな演武を行うところもあれば、受身から始まり普段の稽古を順を追って紹介しているところもあり、見ていてとても参考になるものばかりでした。午後からは協会の合気道競技の歴史を辿るといった内容で紅白戦が行われ、先生方による闘志むき出しの白熱した試合が行われたりもして、驚きつつも得をしたような気分でありました。

三十周年という節目にこのような記念大会が行われ、参加できたことは自分にとって意味深いものになったと思います。これから先、四十周年、五十周年と記念大会が行われるように日々稽古し、また同時に私たちの合気道を

まもなく昭道館の道場部分が一・五倍の広さに拡張されます(二〇〇五年四月竣工予定)。

さらに広めていくことが今回の記念大会に参加した責任ではないかと自分自身思うところです。

●昭道館本部 大西美緒●

この記念大会開催の案内文を見たとき、師範の講習会が受けられ、全国から集まった方々の演武が見られる機会などめつたになので、きっと他の会員の方もたくさん参加するのだろうと思っていました。しかし、あけてみれば(関西からの)一般の参加者が指導員の方々だけでましたし「行っても良いのかな」と不安に思いました。

大会初日の講習会では、合気道を始めて九年目にして初めて志々田師範にお会いしました。『合気道教室』の写真でしか見たことがなかった方が目の前で指導されていることに感動しました。成山師範が前で演技されてい

る時に近くから驚きのため息が聞こえた時には、本部道場で稽古できる事をつくづく幸運に思いました。初めてお会いした方とする稽古はいつも心地よい緊張を感じます。今回は特に、一緒に稽古をした方々皆熱心で本当に楽しく稽古ができました。

翌日、各支部の演武はそれぞれの団体の特徴がみられ興味深いものでした。特に昭道館武蔵野の演武構成は流石だと思いました。演武会全体としては、初級の方々の演武の見せ方が大変参考になりました。昭道館本部の団体演武では、全体としての感想を書ける程の気持ちの余裕がありませんでした。まだまだ心弱いとつくづく感じます。

悩みながら参加させていたただいた大会ですが、今は本当に参加できて良かったと思います。

●昭道館本部 山崎文加●
記念大会の講習会は、河村さんと東野とで新金岡の合気道クラスで指導していたので参加することができませんでした。遅れて大阪を出発し、東京駅では乗換える線を間違えて駅の中を百メートル走のような速さで構内をダッシュし、何とか勝浦までたどり着き、祝賀会から参加しました。いろいろな先生方や支部の紹介がされ、舞台では各支部のPRの時間があつた、どの支部も個性ある内容で楽しかったです。

記念大会に参加して一番最初に感じたことは、年配の方が多く参加されているなということでした。皆さんとても元気で、つらつとしていました。演武会でも各支部、思考をこらした演武で驚くばかりでした。そのなかでも狛江・稲城・浦安・葛西・高津・調布の連合チームの団体演武に見入ってしまった。メンバーは年配の方の割合が大きかったように思うのですが、皆さんとても生き生きしていました。またやり方一つで、いくつになっても、誰でも出来る、続けることが出来るのだなと思いました。

演武の一番最後に自分が参加する関西合気道競技連盟の順番が回ってきました。緊張していたし、あつという間の時間に感じたのですが、この機会に十四本の返し技の内容や順番などを覚えることができたのと同時に、今回参加したことであるいろいろな人と出会い、いい経験をさせてもらいとても勉強になりました。自分の目

第二十九回 関西合気道競技大会

二〇〇四年十一月二十八日、大阪市立阿倍野スポーツセンターにて第二十九回 関西合気道競技大会が開催されました。

この大会は、普段の稽古の成果を発表する場としての意味合いもあり、本部・支部から多くの選手が参加しました。

前年、混合団体戦を無段の部と有段の部それぞれで実施しようと計画されましたが、無段の部の参加者が少なく、無段者と有段者の混合チームの部と有段の部で行われました。しかし今回は無段の部の混合団体戦として安部杯が、有段の部が内山杯として行われました。



大会結果

【自由演武競技】

▼初級の部(級無〜六級) ①キヌセ・ユヅキ・ユヅキ(昭道館本部) ②香取満彦・ユヅキ(天理大) ③松下愛・石川博視(大芸大)

▼中上級の部(五級〜一級) ①田中育子・岡田裕介(大商大) ②亀田卓大・本松良太(大芸大) ③ミヅノ・益田知史(昭道館本部)

▼有段の部 ①大西美緒・萬谷久美子(昭道館本部) ②大浦毅之・濱野竜太(大商大) ③河村未来・山崎文加(昭道館本部)

【短刀乱取競技個人戦】

▼男子の部(植木杯) ①東太樹(大和会) ②白岡岳人(稲門会) ③渡辺俊介(昭道館武蔵野)

▼女子の部 ①小笠原章(天理大) ②河村未来(昭道館本部) ③島崎加奈子(近畿大)

【種目別混合団体戦(安部杯)】 ①昭道館武蔵野(浅見昇・工藤敦子・黒見康春・徳野恒子・永井仁高) ②大商大(浮田有紀・戸村純子・中村雅也・多田紘章・佐藤勇司・谷内直治・瀧本奈緒子・杉島宗一・大上貴志) ③近畿大(松本都・武田恭子・岩下興介・勝又悠・足立孔明・池田周作・岡紀波・中村健・北野大輔)

【種目別混合団体戦(内山杯)】 ①天理大(岩田真雄・大東登志子・小笠原章・小山隆明・山田哲哉・村田恵利・増田喜弘・志村和恵) ②関西学院大(上月修・原泰志・山口広治・崎里学士・濱野裕紀恵・灘憲彰・岸本剛和) ③昭道館本部(選抜(大西美緒・河村未来・久米祐二・酒井進之介・山崎文加・太田有祐・藤本和義・野下直正))

(前頁より)

で見て、自分が感じたことをこれから活かして行きたいと思えます。

●天理大 小山隆明

今回、私は関西の学生代表のひとりとして記念大会に参加させていただきました。一日目の講習会・合同稽古会では、はじめてみる練習方法もあり、合気道にたいする視野を広げることができたと思います。

二日目の演武会で興味深かったことは、各団体が披露する演武から、その団体の特徴がみることができ、中には一度も見たことがないものも見ることができたことです。私は関西合気道競技連盟として参加しました。関西の代表としての演武であったので、学生大会とは違った緊張感がありました。団体演武という形であったので、全体で技を合わせるのが普段とは違って難しく思いました。午後は東西選抜の種目別混合団体戦が行われました。その前に行われた、先生方による旧ルールでの乱取試合では、現在使用が認められていない技を試合の中でみることができ、そこから合気道競技の歴史を感じることができました。

この二日間の記念大会を通して、様々な方々と親睦を深めることができ良かったと思います。この大会に参加することができたことに感謝するとともに、JAAの発展を期待したいと思います。

●天理大 増田喜弘

JAA創立三十周年記念大会と

いう、大変貴重な大会に参加させていただきました大変光栄に思います。

一日目の講習会では、関東の方と稽古しました。それまで関西と関東の合気道は少し違ったものなのかと思っていました。関東の人たちとも全く違和感なく稽古できたと思います。有段無段問わず、いろいろな人と稽古させていたただいた中で、皆さん本当に合気道が好きなんだなと思いました。

二日目の演武会では、まず参加団体の多さに驚きました。参加者の年齢層も幅広く、その中でも、私が一番気になったのは、やはり高齢者の方の演武です。私は今までは学生の演武を多く見てきたので、社会人の方の、しかも高齢者の方の演武というのは非常に関心を持ちました。合気道は生涯スポーツである事を改めて実感しました。午後には東西対抗の種目別混合団体戦が行われました。私自身も試合に参加させていただいて本当にいい経験になりました。

この大会を振り返り、合気道とは本当に素晴らしいものだと感じました。これからもJAAを盛り上げるために、私自身も合気道を続けていきたいと思えます。

●天理大 小笠原章

記念大会一日目は志々田師範、成山師範による講習会に参加させていただきました。黒帯になっていまだまだたくさん分からない技はあり、関東から参加されている方々にも教えていただきました。あつという間に講習会の時間は過ぎてしまいました。夕方の交流会では関東の学生の方たちとあまり話をすることがなかったので、今

回話す機会ができてよかったです。そして、関西でも関東でも河村先輩は盛り上げ方が上手で、とても感心しました。

二日目の演武会では、この団体かはつきり覚えていませんが、高齢の女性の方が参加されていて、一緒に演武されている方たちより動きが遅いのですが、ひとつひとつ一生懸命されていました。私も生涯合気道を続けていけたらいいなあと思いました。最後に、関西の番になり、朝から続いていた緊張が極限になりました。予行演習どおりにやれば大丈夫と言いついて聞かせて、一本一本間違えずやり終えることができました。退場した後は、ほっとしました。

ほっとしたのもつかの間、帰りの電車は強風の影響で電車が何度か止まり、勝浦から東京まで特急で一時間半のところを五時間かかって移動しました。やっと着いたと思ったらまだ東京。大阪に到着したのは夜の十一時頃で、なんとか天理まで帰ることができました。今回、大会の参加し、お世話になった皆様、どうもありがとうございました。

●天理大 大東登志子

JAA設立三十周年記念大会に参加させて頂き、貴重な体験をさせていただきました。三十周年という歴史の深さ、重みを感じました。また、私自身、大会を通して多くの方々と出会い、有意義な時間を過ごすことができました。一日目は、成山師範、志々田師範のご指導のもと合同稽古が行わ

(次頁へ)

平成十七年 昭道館寒稽古

二〇〇五年一月十四日から二十三日までの十日間、昭道館恒例の寒稽古が行われました。最初の三日間は少年の部が、十七日から二十二日は成人の部が午前六時半から稽古を行い、二十三日には合同稽古及び納会が行われました。

見取り寒稽古

昭道館本部 上月修

足が動かへん。相對動作の手刀合わせをしようとしたら足に痛みが走った。成山師範に症状を説明し見取り稽古にさせてもらった。正月の日刊スポーツ新聞の四柱推命占いで「今年のあなたは最悪の年」と書いてあったのを思い出した。藤本君にすぐテーピングを施してもらった。お陰で三日後には何とか歩けるようになった。藤本君ありがとう。

大寒の翌日にあたる寒稽古三日目のアクシデントで、それ以降も見取り稽古となった。見取り稽古にも効用があった。人間見るしかないと思えば今までボケーと見ていた人間が熱心に見るものである。そのため「脱力すること」がいかに大切か、師範の技をみて感じる事ができた。その具体的なところを説明できないものもどかしい。表現できるかどうかは今後の私の練習量にかかっている。「月に1度の練習量では月謝が高くつくな」といつも周囲に冷やかされて1回あたりの単価を下げなければならぬが、寒稽古後はまだ十分に練習に行けていない。ただ今も早起きの習慣だけは続

寒稽古に参加して

光明池支部 広田佳代子

一週間のうち二、三回でも参加できたら、と思いついて申し込みました。今年が初参加です。普段は週に一回、一時間、光明池で教えていただいています。光明池は少人数なのでまづ人の多さに圧倒されました。さらに、大半が有段者の方なので、初心者である私は少々不安になりました。

しかし、稽古が始まると手足の動きを覚えることに必死になり、不安に思う余裕はなくなりました。それどころか、私にとつては参加者の皆さん全員が先生なの

(前頁より)

れ、色々な方々と親睦を深めつつ、内容の濃い稽古を行うことができました。初めて出会った方々も多く、色々な方々と稽古ができたのもこの大会の良さであると思えました。参加されている方々の年齢層も幅広く、生涯スポーツとしての合気道でもあるのだと思えました。

二日目。早朝は、雨風共に強く、大荒れの天候でありましたが、演武会が始まる頃には、早朝の出来事が嘘かと思われるくらいに晴天となり、気温も高くなりました。午前は各団体の演武が行われました。大勢の人たちの前で緊張もしましたが、前日の力の入ったリハサルのお陰で伸び伸びと演武ができました。団体演武も全員の息がピッタリと合います。演武することができたと思います。午後からの混合団体戦は歴史を思わせる試合でした。昔のルールでの乱取競技など多様さに驚きました。

このように、貴重で有意義な二日間を過ごすことができました。大会という私は、勝つことばかりを考え、意気込んでばかりいましたが、基本に忠実に、富木先生が生み出された合気道競技を正しい形で広めることの大切さを感じました。また、年齢層幅広く学ぶことのできる合気道を、生涯スポーツとしてこれからも続けたいと思えました。私は、合気道と出会って四年目ですが、大学卒業後も、時間を見つけては、稽古に励みたいと思います。そして、合気道を通して様々な人々と出会い、一人でも多くの人に合気道の魅力を伝

えることができるように、日々精進していきたいです。

●大商大 濱野竜太●

三十周年記念大会ですし、場所も千葉の勝浦というところでワクワクしていました。到着して、すぐに合同練習開始です。関東の方はあまり存じ上げてないので正直不安でした。しかしいい人ばかりだったので、ホッとしました。そしておもしろい発見もあつたのです。関西のみなさんは同じ技を習っているとはいえ、一人一人いろんなクセがあつて、それが僕は好きなのです。関東の方も同じように、個性的な技の人が多く、とても勉強になりました。それにしても引退して運動不足のせいかな、すぐに息がきれるのです。「明日の演武の体力がもつのかいっ！」と思わずツツコミをいれてしまいました。練習が終わるとパーティーの始まりです。「さあ困ったぞ、どうしよう・・・あわわ・・・」なぜならお酒が大の苦手な上に、大変弱いからです！パーティーでは関東の人とのふれあいを楽しみたいところですが、アルコールのせいか気づけば布団の上でした・・・。

二日目の演武会では自分の出番まで、関東の方の演武を見ていました。一般の方の演武は見ていて

とても楽しかったです。一般の方の演武というのは、とても個性的で、さらにもともと良いと思ったのは「とても楽しんでた」ということです。やっぱり楽しんで合気道をするのは、とても良いことであり、武道に対する原点を思い出させてくれます。

大会というのは、いろんな方と知り合いになれる、勉強になりますので、とてもいいことです。三十周年ということもあり、歴史も感じました。これからは合気道を頑張るとともに、多くの人が習ってほしいです。

●大商大 東野麻美●

大会二日目、演武を見て思ったのは、全体的に年配の人が多かったように感じましたが、皆元気で受身もちやんとしていたのでビックリしました。負けていられないし、「頑張らない」と思いました。

自分の出番では様々な技を行いました。久しぶりにした技もあり失敗してしまいました。体力もかなり落ちていたので、自分でもびっくりでした。思ったよりも全然出来なかった。練習しようと思いません。

一泊であつたという間でしたが、なかなか色々なハプニングもあり、皆とも色々な話のできたので、楽しかったし、参加させて貰えて良かったです。

●大商大 宮本昌佳●

今回JAA設立三十周年記念大会の会場に到着した時に驚いたのは、その会場の広さでした。何年前に全日本(学生大会)の会場



で、回っても回っても一対一で、しかも次から次へと違う先生に相手をしていただけるという嬉しい稽古であることに気がつきました。寒稽古は私のような初心者にとつてこそ良いチャンスだと考え直し、稽古に参加しました。

寒稽古で稽古した技のほとんどは始めて教えていただくものでした。なかでも、相手が技を掛けてきて、それを掛け返すというのが気に入りました。今までは油断していました。これからは、もしかしら掛け返されるかもしれないと常に警戒しておこうと思えます。

三日目くらいには、楽しさの中に眠たさも加わってきましたが、

生活改善の最先端?!

普段、一日中同じ姿勢で過ごし、就寝時刻は「丑の刻」。土日はいつも昼頃まで寝ているという不健康な生活をしています。そんな生活をしている人がかかちやすいといわれているうつ病など現代病への対策、仕事もプライベートも充実した生活を送る為の効率的な時間の使い方、そういった話題で登場する改善の共通キーワードの一つに「朝型の生活」があります。私の場合、寒稽古中は「寅の刻」(午前四時)起きになるので、生活リズムを強制的に「改善」(?)してくれる行事といえるのかもしれない。ただ急に「改善」するのは簡単ではなく、いつも以上の家族の協力、「また、明日ね」と励ましあう仲間、「その仕事は寒稽古後にやります」とはねつける気の強さを受け入れてくれる会社、そう

丁度タイムリよく「毎年、一週間続けて参加した人とかの中から感想文を書いてもらっているのですが・・・」とこの原稿依頼の声を掛けられ、後押しをしていただき、無事に皆勤することができました。

私事ですが、この春には大学を卒業し、就職します。単純かもしれませんが、この一週間を頑張れたのだから、新しい環境の中でも頑張っていけるような気がします。

最後になりましたが、説明してもなかなか理解していない様子の私に対しても、親切丁寧に指導いただき、皆さん本当にどうもありがとうございました。

いった環境と、眠気や寒さの中で布団から出るちよつとした勇氣?!があつてこそ毎朝寒稽古に参加できたのだと思います。

前半は、組み付かれたときの技・裏技を稽古し、それを返し技につなげていくという内容でした。後半は前半の復習や、最近、他の道場では稽古されなくなってきた技の紹介でした。参加者は毎朝五十名を超え、毎回多くの方と稽古することができました。有段者同士稽古する機会も多かったのですが、同レベルの相手だお互いの遠慮がかた言もなく、せつかくの機会をあまり生かせなかったことは反省点だと思います。そしてもう一つ、三日も持たずに夜型人間に逆戻り、これも反省。

(担当:編集係M)



2005年1月23日(日)合同稽古会後(昭道館本部道場)

として使った事もあるらしいですが、研修センターといえども流石は日本武道館研修センターといえの広さでした。初日は成山師範、志々田師範による講習会がありました。志々田師範は崩しを主に教えてくださり、成山師範は基本の当て身技、そして応用を教えてくださいました。技よりも人間関係が苦手な私は、知らない関東の人に話しかけにくかったのですが、思いのほか向こうから来てくれたので助かりました。

次の日、私たち学生が呼ばれた目的でもある、学生規定、自由技、本体のつくり、裏技、短刀突きによる返し技を披露することになりました。私たちの大学のほか、近畿大学、天理大学、関西福祉科学大学の四大学が来ていました。その中で行う演武は普段の大会とは

また違い、いささか緊張しましたが無事終えることが出来たので良かったです。でも、演武最中に腰が痛くなったのでかなり焦りました。

私たちが関西のメンバーは電車の都合上、めまぐるしく動いていましたが、それでも他の支部の演武もさまざまな年代の人がして見ていて楽しかったし、来て本当に良かったと思えました。

●大商大 葛井彩代●

JAA三十周年記念大会に参加させていただけるとのこと十二月四日、五日に千葉の勝浦に行ってきました。朝早くに集合し、五時間ほどかけて大会会場である日本武道館勝浦研修センターに着。その後、講習会・合同稽古では普段の学校練習ではないような技をたくさん教えていただき、関東の学生の人たちとも少し交流ができたので、とても楽しかったです。

二日目の演武会に出場するのは、学生がほとんどで一般の方々はあまりいらつしやらないのかなと思っていたのですが、意外と一般の方々が多く、年齢層も幅広く見えたことのないような技をたくさん見ることができたので、「こんな技もあるんだなあ」「やつてみたいなあ」と好奇心が湧いてきました。自分の出番では、自由演武の途中で頭が真っ白になったのですが、東野先輩が上手く誘導してくださったので大きな失敗もなく終えることができました。引き続き、先輩方や指導員の先生方の演武や護身の技などを見

ることができ、どれもすばらしいだったので「私もあんなふうになれたらなあ」「あんなふうになれたらなあ」とすごく思いました。今回出場したメンバーの方々

は、皆、黒帯の方たちで、私一人だけが白帯でした。出場メンバーを聞いた時、本当に私がこの中に居ても良いのだろうかと思つたのですが、尊敬する先輩方や指導員の先生方と一緒に出場でき、とても勉強になりました。この大会で得たものをこれから合気道で生かしていきたいと思います。

●関西福科大 浅野志実●

JAA三十周年記念大会に参加し、とても貴重な経験をさせていただくことができました。大会一日目の講習会では、技を掛けるときに必要な崩しや基本から応用までの当身技を学び、普段自分が行っている技のかけ方などを見直し、研究することができ、とても勉強になりました。また、普段と一緒に練習することのない関東の方とも交流を図ることができ、良い機会になったと思います。

二日目の演武会では、関西大会や学生の大会では見ることのできない様々な団体の演武を見ることができ、興味深い演武会となりました。関西合気道競技連盟の演武では、成山師範に指導して頂いた十四本の返し技や、学生の規定技などを自分なりに精一杯披露することができたと思います。

今まで大学の合気道部に入り、昭道館では成山師範や先生方の指導の元、昭道館の一般の方や他大

(次頁へ)

(前頁より)

学の方と一緒に練習してきて、様々な大会や行事にも参加し合気道を通してたくさんのもので得てきました。学生生活の最後に今回のような記念すべき大会に参加することができ、とても良い思い出を残すことができたと思います。

●関西福科大 金子祐美●

今回の大会に参加できたことを誇りに思います。二百名を超える選手が参加したこの大会で、富木先生や成山師範、その他大勢の先生方の想いがさらに伝わってきたような気がします。いつも師範が言っておられるように、「技だけではなく心も」ひとつの方向をむいている、そんな大会だったと思います。

まず一日目から振り返ってみると、講習会でも様々な場所から多くの参加者が集まっていたことに驚きました。普段の稽古でいっしょになることのないような関東の方と組んで技をすることは、関西で稽古することと違ってとても新鮮でした。七本の崩しや基本十七本を毎回の稽古の中に組み込んでいた私たちは、今回の講習会での稽古内容はいつもと同じように進んでいったのですが、それをはじめで行う人がいることに少し驚き、でもこういう機会があることよって合気道が少しずつでもひとつになれるのだな、ということを考えていました。基本を応用し、技を発展させるという大切なことができることに感謝します。私は昭道館本部で稽古させて

ちですが、昭道館本部の練習体系のすばらしさを再確認しました。

二日目は、私も出番のあった演武会です。他の支部の演武を見てみるとそれぞれの支部らしさが出てとてもおもしろかったです。関西メンバーとして参加して、みんなでひとつのことをするという経験はめったに出来る事ではないと思います。そして、全国の合気道を愛する人々と一緒に稽古ができ、交流が持てたことは、すばらしい経験になったと思います。これからも私たちの合気道が発展し、さらに多くの人々が合気道の楽しさを知ってくれたら、と心から思います。

(編集係Mより)

JAA三十周年記念大会は二日だけ参加させていただきました。前夜に大阪を出発して足掛け二日で勝浦に移動。朝は近くを通過した台風の影響で強風が残っており、三十分程度電車が遅れました。

帰りの時間にはもうすっかり風も止み、閉会式終了後、会場片付けのお手伝いもせずには大急ぎで駅へ。ところが、朝よりもっともつと電車が遅れ、約十時間かけて帰宅。東京―大阪間、飛行機で一時間、新幹線でも二時間半の時代にこの所要時間・・・勝浦は遠かった。そして今年開催される国際大会も同じ場所。季節はずれの台風が来ませぬように(祈)。

短刀乱取競技と短刀体捌き競技に場外指導の違いはあるの？



短刀体捌き競技と短刀乱取競技では場外指導の基準が異なるのでしょうか？

右図の一つの四角が畳一畳、黒い部分を赤畳としてご説明します。

短刀乱取競技のコートは50畳が規定の広さで、その範囲内の外側に赤畳が敷かれますが、その赤畳の外側の線が場内場外の境界線になります。

短刀体捌き競技のコートは32畳が規定の広さになりますので、右図のようなコートでは赤畳の内側の線が場内場外の境界線になります。

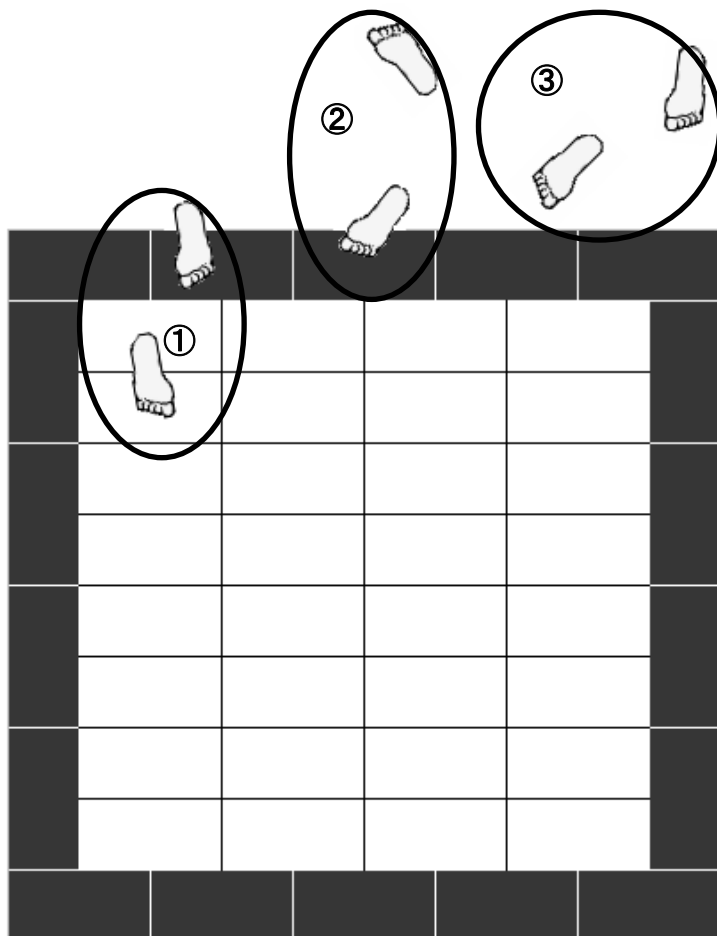
【短刀体捌き競技の場合】

片足が場外に出ると場外にでたとみなされ、①②③すべてが場外指導対象となります。

【短刀乱取競技の場合】

両足が場外に出ると場外にでたとみなされ、③のみが場外指導対象となります。

※会場の広さなどによって特別ルールが設けられることがあります。必ず審判の指示に従ってください。





女子部稽古会

二〇〇五年二月十三日(日)、昭道館本部道場にて毎年恒例の女子部稽古会が開催されました。女子部稽古会には男性は成山師範と助手の方々のみといういつもと違う雰囲気稽古会です。

今回は、寺西先生、安居先生、中村芳勝先生、西井先生、酒井先生、成山哲也氏、菅野氏が助手として参加して下さいました。そして関東からの参加者二名を含め、五十名を超える女性稽古生が集まり、終始和やかなムードで稽古が行われました。

まず初めに正座から行う後の先の崩し、続いて古流護身第三の形立ち技までを行った後、十四本の返し技を行いました。

十四本の返し技(の一部)は、近い将来に昇級・昇段審査に組み

込まれる予定で、最近の昭道館行事の"常連さん"です。それでも覚えては忘れ、覚えては忘れ、の繰り返し。上級の皆様・有段の皆様はもう覚えましたが?

今回参加できなかった女性の皆様、来年はぜひご参加していつもと違う雰囲気での稽古をしてみませんか?

第二十四回関西学生合気道新人競技大会

2004年12月12日 於 住吉武道館

【短刀乱取競技】●男子個人戦→①芝辻亮輔(近畿大)②吉見和晃(成城大)③田中博貴(近畿大学)

●女子個人戦→①岡本初美(関西学院大)②秋山茉莉子(成城大学)③田中育子(大阪商業大)

【演武競技】●男子 対徒手→①早稲田大 ②関西学院大 ③天理大 ●女子 対徒手→①関西学院大 ②大阪教育大 ③奈良女子大 ●男子 対武器→①奈良教育大 ②近畿大 ③関西学院大 ●女子 対武器→①関西学院大 ②奈良女子大 ③関西福祉科学大

大会結果

AiKiDo

第七回 昭道杯

2004年12月19日、昭道館本部にて昭道杯決勝戦が行われました。昭道杯は年間五回に渡って行われる短刀乱取個人戦です。関西合気道競技連盟の審判員養成と乱取試合の機会が少ない道場生への機会提供を主目的に開催されています。

決勝戦は、女子の部は小笠原章(天理大)対山崎文加(昭道館本部)、男子の部は増田喜弘(天理大)対丸山剛史(梅合会)で行われました。両試合共になかなか互いに相手に得点を許さず、男子の部は増田選手が優勝し、女子の部決勝戦では延長戦になるという大接戦の末、小笠原選手が優勝しました。

平成十七年度 小島杯

2005年2月11日 於 天理北中学校柔剣道場

天理市体育協会五十周年記念合気道競技大会と同日に開催された小島杯。近畿大、天理大、関西学院大、大阪商業大、関西福科大、大阪芸大の各大学と大和会、養武会、天理昭道館で約七十名の選手が参加しました。有段男子決勝戦は規定時間では勝負つかず、短刀乱取で延長戦が行われました。他の競技結果や大会の様子については、天理大Y監督や参加者の皆様に聞いてくださいね。

【徒手乱取個人戦】●無段男子→①山北真満(関西学院大)②本田明生(関西学院大)③赤木義則(関西福科大)③小橋史佳(関西学院大) ●無段女子→田中育子(大商大)②市田智美(関西学院大)③笠井悠希(関西学院大)③久寿米木敦子(天理昭道館) ●有段男子→①枝折優(大和会)②東太樹(大和会)③小山隆明(天理大)・花田貴道(天理大) ●有段女子→大東登志子(天理大)②小笠原章(天理大)③志村和恵(天理大)③山崎文加(養武会)

天理市体育協会五十周年記念合気道競技大会

(2005年2月11日 於 天理北中学校柔剣道場)

【演武】●小学生初級の部→①樋口龍人(山の辺小)②高田咲南(前裁小)③岩本紗奈(山の辺小) ●小学生中級の部→①中あずさ(前裁小)②安居大道(前裁小)③岩本花奈(山の辺小) ●小学生上級の部→①池永亮(前裁小)・安居健道(前裁小)②松谷知佳(山の辺小)・安居愛輝(前裁小)③池田太樹(山の辺小)・田辺雄清(山の辺小)

【平成十七年度 昭道館 行事予定】

※特記がないものは本部道場にて実施予定。
 ※2005/2/20 現在の情報です。

3月	
3/05(土) ~06(日)	関西本部春季研修合宿(和歌山県湯浅)
3/20(日)	昇級審査会 (09:00~学生、13:00~少年・一般)
4月	
未定	道場開き
4/10(日)	昭道杯争奪戦及び審判講習会(13:00~)
4/17(日)	定期研修会(13:00~15:00)
5月	
5/08(日)	昭道杯争奪戦及び審判講習会(13:00~)
5/22(日)	有段者研鑽会(13:00~15:00)
5/22(日)	審査部総会(15:30~17:30)
6月	
6/12(日)	第25回関西学生合気道競技大会 (住吉武道館 10:00~)
6/26(日)	昇級審査会(09:00~学生、13:00~少年・一般)
7月	
7/10(日)	昭道杯争奪戦及び審判講習会(13:00~)
7/24(日)	第3回関西少年合気道競技大会 (住吉武道館 13:00~)
7/30(土) ~31(日)	日本合気道協会指導部講習会 (神奈川県伊勢原)

8月	
8/10(水) ~16(火)	夏期休館日
8/28(日)	定期研修会(13:00~15:00)
9月	
9/11(日)	昭道杯争奪戦及び審判・審査講習会(13:00~)
9/25(日)	昇級審査会 (09:00~学生、13:00~少年・一般)
10月	
10/07(金) ~10(月)	第6回国際合気道競技大会 (日本武道館勝浦研修センター)
10/16(日)	昭道杯争奪戦及び審判・審査講習会 (13:00~)
10/30(日)	第36回全日本学生合気道競技大会 (東京・新木場)
11月	
11/27(日)	第30回関西合気道競技大会 (阿倍野スポーツセンター 10:00~)
12月	
12/11(日)	第25回関西学生合気道新人競技大会 (住吉武道館 10:00~)
12/24(土)	稽古納め(18:30~20:30)
12/25(日)	昇級審査会 (09:00~学生、13:00~少年・一般)
12/25(日)	昭道杯決定戦(審査会終了後)
12/25(日)	忘年会(場所未定 18:00~)
12/26(月)	本部道場煤払い(10:00~)
12/27~2006/01/04	年末年始休館日



Dave's one point English corner

～ 無心 ～



無心。この状態になれば、様々な状況でも、冷静に、怒らずに、考えずに、すぐに反応できます。合気道の場合は、相手の攻撃に対しても、技がとっさにでる理想的な状態です。もちろん、無心の状態になれたとしても、自然と技が出来るわけではありません。沢山稽古をし、技が体と頭に染み込んでしまうぐらいになってやっと、頭で考えなくても状況に応じて技が出来るようになります。

話す言葉についても同じことが言えます。日本人は日本語を話す時、単語を一つ一つ考えなくてもスムーズに話します。それは他の国の人々と同じことです。産まれてからすぐに話す練習をして、知らない内に無心に話せる状態になります。しかし、違う言語を話そうとするとパニック状態になってしまい、無心の状態ではなくなります。その言葉の学習が十分でない状態だと“どんな単語を使ったらいいかな？”“この文法は正しいかな？”A, the, is, are, of, on, in...など、頭が痛くなるぐらいたくさんことを考えなければならないのです。でもやっぱり、どんな状況でも冷静に考えることができたなら、なんとか解決できるものです。

次の英文を読んでください。焦ると答えるのが難しそうに思えますが、冷静に素直に考えたら、答えることができますと思います。挑戦してみましょう！ Let's try!!

1. Clara Clatter was born on December 27th, but her birthday is always in the summer. Why?
2. Before Mount Everest was discovered, what was the highest mountain on Earth?
3. Why are 2005 American dollar bills worth more than 2004 American dollar bills?
4. How many times can you subtract the number 5 from 25?
5. Use all the letters in the words "NEW DOOR" to make one word.
6. In what year were Christmas day and New Year's day in the same year?
7. Which is correct to say, "The yolk of the egg are white" or "The yolk of the egg is white"?
8. In baseball, how many outs are there in one inning?
9. A man working in a butcher shop is 183 cm tall. What does he weigh?
10. A farmer has 17 sheep and all but 9 die. How many are left?

どうしても答えがわからない人は、道場に行って知ってほしい人に聞いてみましょう！



The interviews

--- Interview with member of Shodokan ---

今回のゲストはアメリカのコロラド州在住のデーブ ネットルズさんとケリー ネットルズさんです。

(A-デーブ&ケリー ネットルズ、Q-ディビッド グレブス)

Q. ご結婚されてから何年ですか？ そして合気道を始めてどれくらい経ちましたか？

A. 結婚してから 25 年、合気道を始めてから 20 年になります。

Q. どうして合気道をはじめたのですか？

A. ケリーは“Judoka”ジムでのエアロビクスクラスが中止になったので、その代わりに合気道を始めました。その 2 週間後にデーブもはじめました。そして彼は今や JAA/USA の上級指導員としてアメリカ中のセミナーで指導しています。

Q. どれくらい稽古したり教えたりしているのですか？ あなたの道場についても教えてください。

A. 仕事場も道場もコロラド州のイングルウッドにあります。コロラドには田中征二先生やロン アボ先生の道場など、いくつかの提携道場があります。この 3 道場で 4、50 人の生徒がいて、3 つのいずれの道場でも稽古できます。ケリーも参加しますが、デーブは週に 3 回、イングルウッドで教え、週 1 回、田中先生の道場でアシスタントをしています。

Q. 今年の 10 月には来日するのですか？

A. いくつかのクラブに声をかけて、勝浦で開催される大会に参加するつもりです。

In this edition of Shodoho, we have interviewed Dave and Kerry Nettles of Englewood, Colorado U.S.A. Dave, 55, was recently promoted to 6th Dan; and Kerry, 53, is a 4th Dan.

Q. How long have you been married and how long have you been practicing Aikido?

A. We've been married for over 25 years, and studying aikido for 20 years.

Q. Why did you start to study?

A. Kerry started aikido as a replacement for a cancelled aerobics class at the "Judoka" gym. Dave started 2 weeks later because it sounded like something he'd be interested in - he's now progressed to the level of Chief Technical Director and Senior Instructor for the JAA/USA and teaches seminars throughout the U.S.

Q. How often do you train/teach and where is your dojo located? How many students do you have?

A. Business office and dojo are both located in Englewood, CO, but there are a number of affiliated dojos in the Colorado area, including Sensei Seiji Tanaka's dojo in northern Colorado and Sensei Ron Abo's dojo in downtown Denver. About 40-50 students train at the 3 dojos, and membership at any of the 3 dojos allows free training at the other 2 dojos, so students often attend more than one dojo each week in order to train with additional instructors. Dave teaches (and Kerry trains) 3 classes per week in Englewood and assists in teaching at Tanaka Sensei's dojo for 1 class each week. Both D&K also train in Takamura Ha Shindo Yoshin Kai jujutsu twice a week in Evergreen, CO under Sensei Toby Threadgill.

Q. Are you planning on coming to Japan in October? If so, how many people are coming?

A. We will be attending the event to be held in Chiba in October and are encouraging clubs throughout the U.S. to participate. (Some people made other plans for travel this year when they thought the tournament was going to be in December, because they couldn't possibly travel in December - that may cause a lower turnout from the U.S. - we are hoping at least a core group will be represented.)



編集後記

発行予定日である昭道館春季合宿の日程が思いのほか早く、どうしても欲しい「とある編集材料」を自力で用意する余裕がなかった。今回は佐藤勇一さんに特別協力いただきました。突然の協力要請を快く引き受けて下さり、ありがとうございます。この場をお借りして御礼申し上げます。そして順調に編集が進み、8割方仕上がって目処がついたところで安心して眠り、翌朝パソコンの電源を入れると起動しない(汗)。発行日を遅らせるしかないときあらめていたら別のパソコンで第十四号編集中段のファイルを見。早速フロッピーに保存して持ち帰り、差し迫った締切りとの格闘再開・・・と思ったらファイルが壊れていて開けない。今度こそお手上げだ。と思っていたらパソコンの修理が予定より早く終わり、印刷原稿締切りとの格闘再燃。スリリングな編集作業となりました。そして予定通りの発行(ホッ)。

皆様からのご意見などお待ちしております。

E-mail: shodoho@yahoo.co.jp
または、直接、昭道報係まで。

中村 芳勝(発行責任者)

山形 忍(編集長)

ヒッグス アラン

グレブス デイビット

伊達 由美子

萬谷 久美子

The 30th Anniversary of the establishment JAA

An event commemorating the 30th anniversary of the Japan Aikido Association (JAA) was held at Nihonbudokan Katsuura Center on December 4th-5th, 2004. The JAA was re-started by Kenji Tomiki Shihan on November 3rd, 1973. The first inauguration ceremony of the JAA was held the following year, and 30 years had passed since that date.

On the first day, a seminar was held. On the next day, more than 20 groups performed enbu, and also there was an introduction of the old rules of randori.

KANGEIKO 2005

Kangeiko (cold winter training) was held from January 17th to the 23rd, 2005.

(Kangeiko for Children was held from the 14th to the 16th.)

The training started at 6:30 a.m. every morning except on the last day. On the first day, over 50 people gathered to train, even though it was raining outside. Although the training was held in the dojo, it was still impressive to see so many people willing to fight the impulse to give up and stay in bed when they woke up on a dark, rainy morning.

Kangeiko cultivates your mind more than normal training.

Many people completed the cold winter practice with a perfect attendance record (Kaikin.)

【Event Schedule of Shodokan】

March	
5 th -6 th (Sat-Sun)	Kansai HQ spring training camp
20 th (Sun)	Grading (University students) 9:00am-12noon
	Grading (children and adults) 1:00pm onwards
April	
Undecided	Dojo opening Shodokan HQ
10 th (Sun)	Shodohai contest and refereeing practice 1:00pm onwards
17 th (Sun)	Special training (Shodokan HQ) 1:00-3:00pm
May	
8 th (Sun)	Shodohai contest and refereeing practice Shodokan HQ 1:00pm onwards
22 nd (Sun)	Practice for black belts - Shodokan HQ 1:00-3:00pm
22 nd (Sun)	Referees' meeting - Shodokan HQ 3:30-5:30pm
June	
12 th (Sun)	25th Kansai Student Aikido Tournament Sumiyoshi Budokan 10:00am onwards
26 th (Sun)	Grading (University students) Shodokan HQ 9:00am-12noon
	Grading (children and adults) Shodokan HQ 1:00pm onwards
July	
10 th (Sun)	Shodohai contest and refereeing practice Shodokan HQ 1:00pm onwards
24 th (Sun)	3rd Kansai Children's Tournament Sumiyoshi Budokan 01:00pm onwards
30 th -31 st (Sat-Sun)	Instructors' practice Isehara, Kanagawa



Shodoho --- Newsletter of Shodokan ---

From the editors

To our readers. Every edition of this newsletter will contain an interview of someone within or outside the Honbu dojo. If you have any requests of people you'd like to know more about please let us know. We will also try to answer any questions you may have concerning Aikido waza by going directly to the source, the teachers, in this newsletter so again please let us know what you want to know. If you have any suggestions or ideas as to how to make this newsletter better or if you are interested in lending a hand your help is always welcomed.

Contact Kumiko Mantani,
David Graves,
and Alan Higgs
at shodoho@yahoo.co.jp.
We eagerly await
your messages.



August	
10 th -16 th (Wed-Tue)	Summer holiday Shodokan HQ
28 th (Sun)	Special training Shodokan HQ 1:00-3:00pm
September	
11 th (Sun)	Shodohai contest and refereeing practice Shodokan HQ 1:00pm onwards
25 th (Sun)	Grading (University students) Shodokan HQ 9:00am-12noon
	Grading (children and adults) Shodokan HQ 1:00pm onwards
October	
7 th -10 th (Fri-Mon)	6th International Festival Nihon Budokan, Katsuura
16 th (Sun)	Shodohai contest and refereeing practice Shodokan HQ 1:00pm onwards
30 th	36th All Japan Student Tournament Shinkiba, Tokyo
November	
27 th (Sun)	30th Kansai Tournament Abeno Sports Centre 10:00am onwards
December	
11 th (Sun)	25th Kansai Student Tournament (Novices) Sumiyoshi Budokan 10:00am onwards
24 th (Sat)	Final practice of the year Shodokan HQ 6:30-8:30pm
25 th (Sun)	Grading (University students) Shodokan HQ 9:00am-12noon
	Grading (children and adults) Shodokan HQ 1:00pm onwards
	Shodohai contest (final rounds) Shodokan HQ After the grading
	End of year party Undecided 6:00pm onwards
26 th (Mon)	Traditional end of year cleaning Shodokan HQ 10:00am onwards
27 th Dec - 4 th Jan (Tue-Wed) New Year holiday Shodokan HQ	